

令和 7 年度 第 1 回恵那市総合計画推進市民委員会 会議録

日時：令和 7 年 8 月 28 日（木） 午後 3 時～

場所：恵那市役所 災害対策室 A・B

1 開 会

2 会長あいさつ

3 副市長あいさつ

4 議事

（1）総合計画の進行管理について

資料 NO. 1

資料 NO. 2

（2）総合戦略の進行管理について

資料 NO. 3

（3）地方創生関係交付金事業の効果検証について

資料 NO. 4

資料 NO. 5

7 その他

・次期総合計画の策定について

資料 NO. 6

・次回：令和 8 年 3 月頃の開催予定

8 閉 会

1. 開会

■事務局（進行）

これより令和7年度第1回恵那市総合計画推進市民委員会を開会する。私は本日の進行の企画課長の松田です。よろしくお願いします。

名簿2番岩井委員、5番額額委員、7番佐藤委員は所用のため欠席。

本日の会議は恵那市附属機関等の会議の公開に関する要綱に基づき原則公開とし、会議録も後日公表する。

■事務局（進行）

人事異動などで新しく委員になっていただいた方には、本来、市長より委嘱状をお渡しすべきところだが、時間の関係で机上に配布している。名簿12番、十六銀行恵那支店の藤井様。自己紹介をお願いします。

■委員

7月に着任してまだ2か月。金融機関の立場で出ているが、平日はこちらで生活しているので、この地域の生活者としての視点も持ちながら力になりたい。

2 会長あいさつ

■会長

この会議は、市の最も根本的な計画である総合計画の推進に当たり、市民の意見を反映させるものである。率直に、普段思っている考え、質問や意見をぶつけてほしい。私もできるだけ皆さんの心が軽くなるような会議の運営に心掛ける。

3 副市長あいさつ

■副市長

本日は、暑い日が続く中、ご出席いただきありがとうございます。

来年度からの第3次総合計画は、昨年6月に市長から諮問を受け、恵那市総合計画審議会を立ち上げた。先月29日には服部会長から市長に計画案を答申した。9月定例議会にも議案として提出した。

策定に当たり、審議会を5回開催した。その間、市民アンケート、小中高校生へのアンケート、ワークショップ、関係者等へのヒアリング、パブリックコメントなど、多くの意

見を集約した。特に、将来を担う小中高校生の多くの皆さんに積極的にかかわっていただいた計画になっている。

また第3次総合計画案を受け、各地域で地域計画の策定が進められている。皆さんの住まいの地域の地域計画を気にかけてほしい。

本日の会議は現行計画の進捗状況の点検・評価が主となる。忌憚のない意見を頂き次期計画に繋げたい。活発な議論を頂きたい。

■事務局（進行） 議事進行は服部会長にお願いします。

4 議事

（１）総合計画の進行管理について 資料 NO. 1 資料 NO. 2

（２）総合戦略の進行管理について 資料 NO. 3

■議長（会長）

議事は3つある。（１）と（２）は関連しているので一括して説明いただきその後質疑に入る。

〔事務局から資料に基づき説明〕

■議長（会長）

意見、質問があれば。

■委員

第2次総合計画、総合戦略ともに、総合評価の付け方が、S～Eのうち一番低いものとしているが、そうなったときの現場の方々のモチベーションはどうか。

もう1点は、E評価がこんなに多いというのは、次はどうなるのか。そもそも全くできなさそうな指標になっている可能性は、どうしたら分かるのか。現場の生の声、レスポンスがない中、思った通りの結果が出てこないことにジレンマを感じている部分は、改善ポイントでもあるし、次に繋がると思う。

パブリックコメントも、いつからいつまでというのも本当に市民がアンテナを立てていて、自分の生活、仕事以外に関わっている恵那市の流れだが、諦めている人もあるのかと思う。そういう人にも、もう一度火をつける方法はないのか。

■議長（会長）

Eがかなり多い状況について、最終年度に向けてどのように進めていくか。

■まちづくり企画部長

76 の指標については、市役所全体で議論し、この指標でいくと意思確認をしたもの。トップや管理職のみで決めた指標ではない。全体で合意のうえで決めた指標だが、結果として E となってしまったものもある。

計画期間があと 1 年間あるが、1 年で S にするのは厳しいと思われる指標もある。ただ、その実現が全く不可能という指標は 1 つもなく、基本的には、どれも実現できるとして指標にしている。それぞれの現場では各指標の向上に努力している。何とかこの指標で 1 年間頑張っ、少しでも上げる努力を今後もしたい。

評価については部長の評価であると思っている。部下については、この指標の評価＝個人の評価とは認識しておらず、どう頑張ったかのプロセスで評価している。

総合評価を最低評価にすることについて、議論はいろいろあると思うが、1 つでもできなければ E とすると決め、それで 5 年目を迎えた。目標指標が達成できないことで職員のモチベーションが下がっているという認識はない。

■議長（会長）

低い評価が続いている項目は、5 年間の計画期間のうちの 4 年目なので、その原因や理由をしっかりと検討して、いかに次に進めるか。施策として不十分なところは強化すべきという反省になる。一方で、やっているけど指標が上がらないというものもある。それは指標の設定の問題かもしれない。そこは指標以外でやった取り組みで評価できるところはないかという別指標での評価を含めてしっかり評価し、最終的な総括を最終年度に向けてやっていけるように検討を進めてほしい。

■委員

福祉でも教育でも日頃からたいへんお世話になっており感謝している。

指標について、ここまで実施してきて、達成したから次の新しい施策を考えて…ということになっていて、それがまたプレッシャーになっているのではないかなと、この膨大な資料を見て思った。

一番大事なことは、継続だと思う。今までやってきた取り組みをそのまま、あるいは、もっと工夫しながら続けていくことが大事。先日の総合教育会議で、教育基本理念が、「ふるさとを愛し、学び続ける人を育てる恵那の教育」で、主体性、社会性、郷土愛のを継続して取り組む方針とした。それがずっと課題で、まちづくり、人づくりに共通することと思う。達成したら、次に何かやらないといけないというように、今までやってきたことを達成したからここで OK というのではなく、積み上げていくことを工夫していただきたい。

■まちづくり企画部長

教育委員会の教育大綱がどう第3次総合計画に基づいてリンクしているかというのを見たとき、継続性の重要さが教育委員会の中でも議論されていると思う。総合計画の指標では、S 評価も 22 項目ある。S 評価も検証しながら総合計画の基本計画に取り入れていく。E 評価も、どうしても大事なところは、指標の視点を変えてでも、市としての考え方を計画に取り込んでいきたい。

■委員

8 ページ「災害から生活を守る」にある「災害時避難行動要支援者個別支援計画策定率」というのは、民生委員が今回初めてやった台帳のことか。

■事務局

そうです。

■委員

これを民生委員などで順に策定を進めているが、これを集めてどうするのか。

■総務部長

要支援者は、高齢者、障がい者、乳児を抱えている人など、避難する際に配慮が必要な人。市内では令和 6 年度末時点で 6,731 人いて、そのうち、計画策定に同意した人は 3,565 人。半数の方は、対象ではあるが、まだ自分で何とかするという意思だ。同意いただいた 3,500 人について、どう支援していくかという個別支援計画を立てる。緊急時には、遠くの身内に頼れない場合もあるので、隣近所で誰に助けてもらうかを計画する。現在は地域の方々と一緒になって取り組んでいるが、まだ 745 人の計画しか作れていない。それが 11%という実績値。目標値は 100%としているが、時間と労力をかなり要するので、民生委員や地域の方々と一緒に市役所の危機管理課、地域振興課、福祉関係課が合同で取り組んでいる。時間はかかるが、膝を突き合わせて計画策定を進め、有事の際には機能するように取り組んでいきたい。

■委員

総合評価は、1 つでも E があれば E になる。それだと総括の表全体を見たときどうなのか。3 次計画でもこの考え方は踏襲するのか。

■まちづくり企画部長

評価の仕方にはいろいろ議論があるので見直したい。

■議長（会長）

他になれば次に進む。

(3) 地方創生関係交付金事業の効果検証について **資料 NO.4** **資料 NO.5**

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

■議長（会長）

意見はあるか。

19 ページ、大学生がまちづくり活動に携わった回数について。恵那市は包括連携協定大学はいくつあるか。

■事務局

9 校。

■議長（会長）

9 校ある中でまだ 5 件しかないというのは残念だ。中部大学は恵那市内にも校地がある大学なので、恵那校地を拠点としたまちづくり活動が増えるように声を掛けてほしい。

もう一つは、女性の転出の割合について、19 ページで指標になっているが、転出者の割合が低いところで推移している。20 ページの取り組みの中で、女性転出者が少なくなるようなものはあるか。女性の働き場を確保するとか。

■事務局

女性の働き方を支援する講座をいくつかやっている。多くの方に参加していただいている。ただ、そこから実際の仕事にチャレンジするということまで繋がられていない。ビジネスサポートセンターとも上手く連携してさらに周知、広げていきたい。

■議長（会長）

講座があっても定着しないということか。

■事務局

そうです。

■議長（会長）

そういう取り組みをするということがここに書かれていないといけない。

■事務局

「つなぐ」というところに該当するので、次回は書き加えたい。

■議長（会長）

指標が低くなっていることについては、今後、改善していくためにどんな取り組みをするかを書いていかないといけない。

■委員

恵那未来キャンパス構想の実現について。この事業背景としては、若者の転出が課題で、高校生のときから色々な事業に取り組んでいて、対象を大学生まで広げてこれから活動していくということだと思うが、令和7年度 of 取組内容の中で、その後、若者に恵那市に留まっていただくような取り組みはあるのか。

■事務局

市内には大学がないため、高校生が大学に進学すると、進学先で就職するということがある。ここでやっていくのは、恵那市でもこういった色々なスキルが学べるということを広く知っていただき、仮に市外に出ても、恵那市に郷土愛を持ち続けていただくということを含め、「つなぐ」、「チャレンジ」という取り組みをしている。「恵那市がいい」というところに将来的には持っていきたい。

■委員

KPI をもとに取り組みを振り返っているのですが、その結果から見えるトレンド、例えば、2年連続で評価が良くない項目、あるいは前年度と大きく変わっている部分をしっかり見ていく必要がある。また、皆さんが言われたように、総合評価の仕方について。私たちの会社でも半年ごとなどに振り返りはあるが、それぞれの項目の評価があっても、最後は総合評価が気になる。それが一番低い評価を採用するとなると、他は頑張らなくても一緒だよ、ということになってしまいかねないので、そこは見直していいと思う。

19 ページ、事業名である「未来キャンパス構想」と、KPI の繋がり方について。この何年かで世の中の価値観が変わってきている。ここでは20歳から39歳の女性の転出者の割合だが、男性も含め、一時的には外に出ることもあるが、どのようにまた戻ってきてもらうかというKPIでも面白いと思う。

■議長（会長）

Uターン、Jターン、Iターンもあるが、そういった方に関する取り組みも必要。

■事務局

総合評価の仕方は3次総合計画では見直す必要があると思っている。

19 ページのKPIの設定は、委員の意見も踏まえて取り組んでいきたい。

■議長（会長）

総合評価は、以前は平均化していたこともある。ただし、そうすると、どうしても真ん中に落ち着くという傾向があった。真ん中に落ち着くと、高い方は評価されないし、低い方は忘れ去られる。今回は、低いところに着目し、低い評価になってしまった指標を忘れないようにしようという狙い。そもそも総合評価に意味があるのかという議論もある。第3次総合計画では、これまでの変遷を辿りつつ、改めて評価方法を検討してほしい。

■副会長

総合計画の進行管理と地方創生交付金事業の効果検証について。この2つは評価方法が違う。地方創生交付金事業は、単年度とか、事業の評価なので分かりやすいが、総合計画はKPIを基にさらに上積みするような評価をしないと評価になっていかないと思う。

参考1の資料の基本施策、安心して子どもを育てられるというものについて総合評価を出しているが、総合評価はEとなっている。「評価の内容」欄も数値目標、基本施策について深めていなくて、あくまでも指標の評価で止まっているので、総合評価になっていない。きちんと総合評価するのであれば、文章で、例えば、出生数に対する小学校入学児童数の伸び率が令和6年度に初めて0%から上がった。これは「大変すばらしい」とか、指標でないところでも「住みたい田舎ランキング」に選定されたということも含めて、指標を超えた総合評価にしていくといい。それがとりわけ今日来ている市の幹部の役割。指標の評価は部下でもできるが、それを見比べる必要がある。例えば、1(2)は、来年Eが付くことが分かっている。「調査ごとに縮小」と書いてあるのに、できてないから。そうすると、基本目標1の総合評価はEとなる。Eを付けることに行政のプロとして痛みを感じないとだめ。一番低いところに付けてもいいということではなく、前進したところ、伸びたところを書いていけばいい。

■まちづくり企画部長

総合評価を最低評価を用いるというのはモチベーションの低下につながるのではないかとということに対するご意見を多くいただいた。第3次総合計画について、評価方法については、委員の皆様からのご意見を踏まえ、少し抜本的に変える必要があると思っている。

■委員

たべる推進事業について、こういうのを見て、「恵那ってすごいんだな」と思った。40何人も発酵ソムリエがいることに感心した。

販売促進で「アンテナショップによる」と書いてあるが、そのアンテナショップというのはどこにあるのか。

■事務局（農政課）

ジバスクラムの売上は約1億円弱あり、その中の600万円ほどを農産物の販売で稼いでいる。恵那峡サービスエリアに棚を一つ用意して、地元の方々に持ってきていただいて販売している。

恵那駅前に、ジバスクラムの事務所があるが、その1階では販売はしていないが、紹介はしている。これからも活動を広げていきたい。

■議長（会長）

他に意見があればお手元の紙に書いて事務局に出してほしい。
進行を事務局に返す。

7 その他

- ・次期総合計画の策定について
- ・次回：令和8年3月頃の開催予定

■進行（事務局） 次期総合計画の策定について。

〔事務局から資料に基づき説明〕

■進行（事務局）

次回会議は令和8年3月を予定する。

また、令和7年度第1回推進市民委員会についての意見という紙を配っている。今日の会議で発言できなかったことや帰ってから気づいたことがあればこの用紙を使って意見を寄せてほしい。QRコードもあるのでメールでも回答できる。

8 閉 会

■副会長

委員の皆さんには意見を頂きありがとうございました。行政からは KPI を大事にして数値に基づいて厳しく市政を進めていこうという意気込みを見て、たいへん心強く思った。第3次総合計画の取り組みが来年から始まるので、それに向けて一步一步確実に理想に近づけるよう、市民と行政と協働して進んでいきたい。

■進行（事務局）

これで閉会する。

〔閉 会〕